明治廿七年十月三十日印刷
明治廿七年十一月二日發行

# 婦人衛生雜誌

第六拾號

私立
大日本婦人衛生會

## 大日本婦人衛生雜誌第六拾號目次



## 大日本婦人衛生雜誌第五拾九號目次

婦人衛生雜誌第六拾號
（明治二十七年十一月二日發行）

## 講演

### ◉吾等同志從軍夫卒救護の要旨（十月七日於富士見倶樂部婦人衛生會總會）

醫學士　田代義徳君演説

今日は本會の總會ださうで御座います。殊に總裁の宮御臨場の際に當ッて演說致しまするのは、甚だ光榮の至りで御座います。私の今日御話致さうと云ふ事は、此度二三の我々の同志者が集ッて、少しく企てたことが有ります。其事に就て今日私が其主意を布衍して、一應皆樣の御聽に達して置きたいと思ふので有ります。

其事と申しまするのは、皆樣も御承知の通り、今回は、我國と清國と戰ひを開いて、海に陸に屢々捷利を得、寔に國家の爲めに祝すべき報告に接して居ります。此際に當ッて、我々臣民たるものは、國家の爲めに相應の考へを盡さうといふことは、誰方も皆御同感の事で有らうと思ひます。現に日々、新聞紙上にも見えます通り、東京に於きましても、各區内で出兵召集に應じたる家族の者には、無報酬で治療を施すとか、或は各區内の有志家が金圓を聚集して、出兵者にして貧窮なる者は其家族を扶助するとかいふ工合に、夫々準備に汲々として居る際で御座います。勿論此際に臨んで我々臣民たる者は、各其職業を守ッて居りますれば、ソレが即ち國家に對して誠を盡したものと申さなければならぬが、尚は此外に、斯の如き事變

の際には、惟り其職に從事して居るのみならず、一歩を進めて、國家の爲めに相應の力を盡さなければならぬ。現に東京區內で申して見れば、前に云ふ通り醫師が、召集されたる家族の者に、無報酬にて治療すると云ふが如きは、即ち自分の職を以て國家に盡したので、寔に嘉みすべき事で有ります。偏に大なる事にのみ眼を注がず、單に自分だけの學び得たる事、即ち自家の職務を以てなりと、非常の場合には國家に盡すと云ふは肝要ある事で、誰しも亦必ず考ふる事で有らうと思ひます。其事に就て、今回二三の同志者が集ッて、衛生上の事に就て、默すべからざる事として計畫したことがあります。ソレが此頃愈々發起されましたに就て、私は單に二三の先輩者より、其主意を聽き、賛成の意を表して、應分の盡力をなすだけの事で有りますが、先輩者中には、隨分に盡力奔走さるゝ方が有ります。其事は從軍夫卒救護の件でございます。即ち人足の治療及衛生に就て、少しく注意したら宜しからうと思ふ場合が有りますので、斯う云ふ事が發起されることになり、續いて主意書を作ッて、同志者を募りました譯で有ります、デ此際に於て本會にも其主意を布衍して置きましたならば、或は後來何か御參考の端になる事も有らうと思ひまして、私は單に一個人の資格にて、其主意を述べ樣と思ふので御座います本會の雜誌にも主意書を載せるとか、既に載せられたとか云ふ事でありますが、其主意書は從軍夫卒救護の要旨と云ふので御座います。何故斯う云ふ事を申したかと云ふに、御承知の通り今回の事件に就ては、人夫の渡韓する數は實に夥多しく、

一師團の兵の動く際には、ソレに準じて人夫も同じ位ゐ往かなければならぬのださうでございます。現に廣島の師團の出た際には、人夫も一万以上渡韓したのであるさうでございます。又仄に聞く處に因れば今度又東京及仙臺の師團が出るとか云ふ噂さが有る。或は既に幾分は廣島まで往ッたと云ふ事である。即ち今朝鮮に往ッて居るのは、第三師團、第五師團で一軍を組織して居るので、今度往くのが、第一第二師團で組織さるゝので有りますから、是れに二万以上の人夫がなければならぬのであります。新聞にも出ます通り、此頃は東京市内に壯健な車夫が居らなくなッて、老朽車夫が意外の僥倖を得ると云ふことが出て居るが、これは强壯なる者は多く渡韓の途に登ッた爲めで有ります。是等の人夫と云ふ者は、御承知の通り平常有福の者では無いから、從ッて衛生などの事に注意して暮す事は出來ない。大抵は不自由の生活を爲して居る下等人俗に言ふ、其日暮しの者が多い、是等の者が渡韓して、金錢を澤山に得る事があれば、譬へば三十錢なり五十錢なり取れば、皆ソレは已れの口腹を充たすことに遣う。即ち飲食の不攝生をする事に遣ひ果して仕舞うと云ふ有樣であります。デ有りますから、朝鮮に於ける人夫の生活の狀態は、衛生上の眼を以て見ますれば、殆と開け放しで、實に不規律極つて居ると云はなければならぬ、然るに人夫が左程の不規律の事を致して居つても、敢て之が取締を爲し、保護を與えると云ふ者はない。ソレと云ふのは、つまり、戰地に於ては、戰鬪員即ち兵士の羅病者なれば、陸軍の衛生部で取締を致し、若し其手に餘ッ

た場合には赤十字社で取扱ひます。赤十字社に於て若しも手の餘つた時には人夫の方にまで手が屆くかも知れないが、併し今日の處では、赤十字社が戰鬪員外の人夫の衛生にまで注意を施すと云ふ事は、到底及ばぬさうで御座います。現に或人の話に、一人の人夫が仁川で脚氣に罹ッて、折よく軍醫に診察して貰ふことだけは出來て、愈々脚氣病で有ると云ふ診斷はついたが、續いて治療を受けると云ふ事は出來ない。軍醫はなか〱繁劇で有りますから、到底之に向ッて治療の手當を爲す事は出來ない。然るに仁川邊では外に良醫が無いのであります。ソコで如何とも無據、態々廣嶋まで立歸ッて來たと云ふ事で有りますが、實際他にも之に類似した事が澤山有らうと思います。斯くの如く渡韓の人夫が一旦病に罹ると、ソレに對して直ちに朝鮮に於て治療を施すと云ふ事は出來ない、例之ば我本國なれば何處の地方に到ても相當の醫師、完全の教育を受けた醫師が有りすから譬へ病に罹りましても、何でもありますが、御承知の通り朝鮮には醫師と云ふものは殆ど無い、よし在ッたにしても、朝鮮の醫師と云ふものは、此方の漢法醫よりは亦一歩劣ッたもので有りますから、之に治療を托す事は出來ない、且つ又完全なる治療の出來るものではない。ドウしても此方から渡ッた醫師、即ち赤十字社に賴なければ、服藥することもできないと云ふ始末だそうで御座いますソレ等の次第に就て、ドウか渡韓人夫の救護の事を考へたら宜からうと云ふ趣意が起つた、ソレに親密の關係の有るのは戰時の衛生、即ち傷病兵を取扱ふことを知ッて居ると、人足の手が廻らない

と後に大害を醸すと云ふても能く分らうと思ひます。故に私は今茲に其根據として、第一に戰時に我衛生隊の行ッて居ることに就て少しく述べませう。勿論戰時の衛生隊の深い事は、之に與らざる我々普通の人には分らぬが、私かに聞く處に因れば、獨逸國などに於ける戰時の衛生隊と云ふものは、衛生隊も矢張り戰鬪線の中に這入ッて働いて居ッて、負傷した者があれば直樣擔架に載せて小繃帶處に連れて行く、此小繃帶處は戰鬪線から千メートル、數町ばかり離れた處に有ります。ソコデ一先づ假繃帶を爲しまして、戰鬪線から六千メートルを隔て丶野戰病院が在ります。小繃帶所で假繃帶をしたものを、ソコに連れて來て充分に手當を施すので有る、即ち血液の流出するものは、動脈を結繫するとか、繃帶を掛けなはすとか、傷を清潔に洗ふとか、サグリを入れるとか、總べて適當の處置を致すのであります。此野戰病院と云ふものは、一師團に就て都合五個在ります、ソシて一個の病院に二百名の負傷者を入る丶のださうでございます。我國の師團の制に因りますれば、一師團は一万人以上で有ります。して見ますれば、五個の野戰病院に千人の負傷者を入れることが出來るので有ります。而して野戰病院は、戰鬪線の進むと同時に動いて往かなければならぬ。譬へば戰爭が平壤に在れば、野戰病院も平壤まで進み。是れから戰さが鴨綠江の方に進むと、同時に野戰病院もソコまで進んで往くと云ふやうな譯になる。野戰病院で取扱ッて居ッた負傷者は、野戰病院が動いて漸々先きに進むに從ッて、後に遺される、其後に遺されたる負傷者は、今度は兵站部

に屬します。兵站部と云ふ者は、軍醫の手の餘ッた者が在れは取扱ひますが、大概は赤十社で擔任致しますので御座います。今申します通り戰時の野戰病院と云ふ者は始終動く、野戰病院の動くと同時に、重い負傷者は後に遺ッて居らなければならぬ。サウすると野戰病院に遺された負傷者は兵站部に屬します。戰爭區域と兵站區域とを區別をしまして、兵站部の方の事は大概赤十字社が取扱ッて居る。又戰鬪區域内の事は、陸軍衛生部に於て取扱ふ事になッて居る。ソレ故野戰病院で後に遺した負傷者は兵站部に屬する事になッて居る。日々新聞で見ますれば平壤に戰さのあつた際には、仁川其他數ケ所に兵站部を設けたと出て居る。兵站部には兵站病院と云ふものが出來て居て、ソコでは主に赤十字社員が働いて居る。併し前に言ふ通り、一師團に五個の野戰病院と云ふものが出來て其病院で取扱ッた負傷者を、野戰病院の進む時に後に遺して、ソレを赤十字社で引受くるので有りますから、戰鬪の爲めに傷を受けた兵士を引受くるので有りますから、赤十字社の事業と云ふものは、戰爭の區域の廣くなるに從ッて、漸々と大きくなります。ソの上に戰鬪が進むと、野戰病院も進むので有りますから、兵站部もソレに從ッて進むと云ふ樣になる。例之は普佛の戰爭の樣に、彼我の交通が便利なれは、野戰病院の動くのも便利に出來ますが、今回朝鮮に於ける樣では、漸々戰鬪區域が廣くなつて、到底哨兵線が張り切れないやうになる。僅かに五里か十里の處なれば、張ることも出來ませうか、漸く支那領の地に入るに從つて戰鬪區域が廣くなつて、到底哨兵線は張れな

いやうになる。サウ云ふ場合に兵站部の方で餘り多くの負傷者を取扱ひ切れない場合には、之を又豫備病院に送つて來る、今は豫備病院は廣島に在ります。屡々新聞にも出る通り、今度の戰ひに就ては、廣島の豫備病院に幾干の負傷者を送ッて來たなどゝ云ふ事が有ります。朝鮮から廣島の豫備病院に送る其間も亦船が病院になッて居る。新聞にも、日本郵船會社の何々丸が最初は御用船で有ッたが、今度病院船になつたと云ふことが書いてありましたが、即ち是れで有ります。其船の中にも亦數名の醫師が乘り込んで居ッて、廣島まで送ッて來るので有ります。サウ云ふ順序で有りますから、今後第一師團が繰り出して仕舞ひますると、場合に依れば豫備病院を東京に設けなければならぬ。サウすると又汽車の中に醫師が居ッて、傷病者を取扱はなければならぬ。又路次の停車場毎に、譬へば大坂、名古屋などの樣な處には一々醫師が出て居らなければならぬ。ソレで傷病者の容体如何に因ては休息させるとか、或は臨時手當を施しますとか、或は東京まで連れて來ないで、途中の豫備病院に入るゝとか、又は東京まで參らるゝものなれば、直ぐに東京の豫備病院に入るゝとか云ふ樣に致すので有ります。サツなると各地に豫備病院と云ふものを建設しなければならぬ。ソレで御座いますから、赤十字社の爲すべき事と我陸軍衛生部の爲すべき事とは、隨分に澤山有ります。從ッて人夫の事などは到底手の屆くべき筈は無い而して朝鮮から、廣島の豫備病院へ送る間の海路、並に豫備病院を東京に置かるゝ樣にありますれば、東京へ送致する汽車の中にも醫師が居

ッて始終傷病者の注意を加へなければならぬのでございますから、此際に醫師を要するとの多數なる事は能く分ッて居ります。現に民間の醫師が軍醫に採用せされたものは非常に夥多しき數で御座います、聞く處に因れば廣嶋近在は今以て赤痢病が流行して居るが、此頃ドウ云ふものか醫師に不足を來たして、容易に診察を受ける事も出來ないと云ふ始末であるさうでございます。(併是れは或人より聞きました事故事實で有るか否か解らぬ)兎に角廣嶋近邊の醫師は大概渡韓して居ッて、民間に於ても醫師に缺乏して居る事と思はれます。斯くの如く民間の醫師までが、戰鬪員の治療をする事にのみ從事して居るのでございまして、人夫の方に注意すると云ふ暇が無い。赤十字社は手が屆きさへすれは、軍夫の方にも注意を致す旨意では御座いますが、前に申す通り、なか〳〵事業が多くて人夫の方にまで注意する事は出來ぬ。其上に人夫は常に不規律の生活を爲して居るもので有ります。戰鬪兵なれは、平常より衞生上の訓練を受けて居るから、比較的に不意に疾病を起すことは少ない。之に反して人夫は平常からだの攝生を顧る事などは更らになく、殊に不自由勝の生活をして居るもので有りますから、一旦金錢に余融が有れば、濫りに飲食を爲し、衞生上の注意などゝ云ふ事は毫も念頭に措かない者共で有りますから、傍らより監督して、衞生上の注意を與へて、取締をして往かなければならぬ。人夫と雖も均しく我々の同胞者で、殊に今回の如きは、非常に大ある責任を帶びて、異郷に幾多の辛酸を嘗めて、軍用に從事しつゝある時節故、同胞者たる我々は

此際是等の軍夫に對して衛生上の注意を加へなければならぬと云ふ事は幾分の衛生上の智識を有する者は、決して異議ある事で有らうと思ひます。又平壤を始めとし、其他の戰爭に因て見ても、朝鮮の道路の嶮惡にして、運輸に甚だしき不便をなすに就ては、殊更人夫の必要なる事はよく解ります例之ば軍隊が進軍するに當ッて彈藥なり糧食なりを車に載せて、之を人夫が挽くと、輜重兵が之を護送して往くので有りますが、ソレが朝鮮では道が嶮惡で有りますから、到底車で荷物を澤山積んで往く事は出來ない人夫が一人〳〵背負ふて運ばなければならぬ。朝鮮の道路の惡るいのは非常なもので、車も二輪車の通行されぬ處が有る、ソレで（或人の話故事實か否かは知りませぬが）昔元祿の朝鮮征伐の時に加藤清正の用ゐた一輪車の摸型が松山に遺ッて居ッたので、其型に因て一輪車を造ッて用ゐたので大に便利で有ッたと云ふ事が新聞にも出て居りましたが、ソレ位ゐに運輸に不便の處で有ります。成程我國ですらも、邊僻の地に往くと滊車滊船の不通は勿論、隨分道路の難澁なる處が有りまするから、況して未開なる朝鮮に於ては、素より道路の開墾された處も少ないので有りますから、我々が茲で豫想するよりは一層の困難が有らうと思ひます。現に屡々聞く如く、一人毎に一個の荷物を背負ふて往かなければならぬので御座いますから、從て人夫の澤山に入ると云ふ事は言はずして解ります。然るに其人夫が不規律なる生活をして、衛生を害するやうな事が有りましては、輜重が戰鬪兵と共に進む事が出來ない。戰爭の時に當ッて、輜重が遲れゝば糧食が

少ない。糧食が少ないと戰闘員は思ふ樣な働きを爲すことが出來ないかも知れない。現に平壤の戰爭に於ても、野津師團長の報告に依れば、道路が嶮惡で、輜重に甚だ困難だと云ふ事が出て居ッた。又攻擊する際に、大島少將は彈丸の缺乏した爲めに、一時戰爭を中止したと云ふことが有る、ソレ等の事は何に因て來たかと云ふに、皆輜重運搬の不便からで有ります。人夫が不慮の病ひに罹るとか、或は何か事故が有ッて充分に力を盡すことが出きぬと、右の如き報告が世の中に現はるゝと云ふ始末故此際同志者が集合して軍夫の衛生上の注意を加へるのは、啻に軍夫の攝生のみに止まらず、戰闘員の方にも若干の利益が有るのでございます、人夫の攝生に注意すると否とは戰さの上に甚だ影響を及ぼすので有ります。尚は委しく調査すると、我々が豫想して居るよりは一層大いなる利益が有るかも知れない。故に若しも人夫が病に罹ッた時には相當の注意を加へて、輜重運搬に不便を感じない樣に致したいと云ふのが、我々同志者の相計ッて、檄を世に公にした所以で有ります。又何時でも戰爭の後と云ふものは、必ず病氣が流行するとか、饑饉であるとか定まつて居る殊に流行病の如きは免るゝ能はざる事で、先きに普佛戰爭の時には、兵卒に種痘をする事が出來なかつたので、天然痘が大に流行しました、ソレて其兵隊が獨逸の國に這入りましたので、獨逸にまで、天然痘流行の禍を及ぼしました。是れは近頃歐羅巴に於て、十九世紀に疱瘡の流行したのは是を以て第一とするのでございます。又我國でも西南の役の後には、非常に虎列剌病が流行して、

九州地方から大坂に這入ッて來る人は、大抵虎列剌であつて實に悲酸の狀態で有ッたさうでございます。今日とても、現に我國と淸國と戰ひを開いて以來已に業に流行病の兆が見えます。ソレは何病であるかと云へば、即ち赤痢で有ります。目今戰地に於て戰鬪員の負傷外の病氣といへば、多くは赤痢であります。又戰地のみあらず本國に於ても、九州、山陽道の方には赤痢が非常に流行して居ります。又一体我國に於ては本年の如く、多くの傳染病患者、從ッて多くの死亡數を出した事はない。先日、大日本私立衛生會雜誌に於きまして內國衛生上の事を取調べた報告が出て居りましたが、是れに因て見ますると、傳染病は年々歲々蔓延の區域を增加して參りました昨二十六年の如きは九州地方では、全國赤痢病と云つても宜しい位ゐの有樣で有りました。昨年の患者は十六万七千六百五十三人で有ります、併ながら死亡數は比較的に少ない。則ち十六万七千六百五十三人の患者の中、死亡數は四万人で有ります。其中で最も多いのは、福岡熊本、之に次いては大坂であります。東京でも御承知の通り流行致しまして、少しく衛生上に注意して居る人は、皆赤痢患者を見たと云ふ事を申しました。其頃廣島邊も大に流行しました。續いて本年め、衛生上不規律極まる人夫等が朝鮮に往ッて、飲食の不攝生をするのは眼前でありますから、今回の戰爭が終局を告ぐる曉に、若し不幸にして流行病があるとすれば、必す赤痢病に相違ないと云ふ事を斷言致します。現に朝鮮釜山の兵站部病院の報告中に、種々の報告が載ッて居りましたが、其中に同地に在る人夫の病

## 吾等同志從軍夫卒救護の要旨

氣は多くは赤痢であると云ふ事が載ッて居りました。其上に尙ほ注意すべき事は、朝鮮に於ける飮料水の缺乏であります。今度も平壤を略取した後で、一番困難を感じたのは、飮料水の不足で、新たに井戸を堀ッて始めて飮料水を得たと云ふ事が報告中に書いて有りました。斯くの如く飮料水の缺乏、飮食の不攝生などは、必ず赤痢を流行させる原因となるに相違ない。又人の話にも、彼方では飮料水が無いので、竹筒に炭とか砂とかを入れて、ソレを一人〳〵に一個づゝ持つて居ッて、不潔い水を濾して飮むで居ると云ふ事で有ります。勿論事實であるか否か解りませぬが、兎に角朝鮮地方に於ては常より、飮料水に缺乏であると云ふ事は、皆人の申すことでございます。又嘗て朝鮮**の内地を旅行した事の有る或軍隊の軍醫よりの書**翰にも、朝鮮に往ッて、先づ第一に氣の附くのは不潔と云ふ事で有ると云ふことが書いて有りました。又病氣では赤痢マラリヤの如きものが多く、其外の病氣も絕えず流行病が多く有ると申すことでございます。左樣なる不衛生の土地に於て常に衛生の事に毫も注意しない幾万の人夫共が、不規律の生活をして、終に流行病でも發せしむるやうな事が有ると、其流行病が單に人夫のみに止まつて居れば宜しいが、一度人夫間に流行し始めた上は戰鬪員の方までも跋扈しないとも申されない、併し戰鬪員の方は軍醫が附いて居ッて注意をする事故流行病を發するやうなことは萬々無いから先づ安心ではあるが、人夫の方は誠に不安心である、ソレて人夫に流行すると、人夫と交通往來する輜重兵が、之に冒されないとは限らない、若し

軍隊に流行病などの發するやうな事が有ッては、國家の爲めに憂ふべき事で有ります。ソレでなくてすら、從來の戰爭を見ても、鉄砲或は槍等の武器にて殪れる者は至て少なく、病の爲めに殪れる者が多い。譬へばナポレヲンの戰爭に……何の戰爭で有ッたか鳥渡忘れましたが千八百二十年の戰爭に當ても三十万九千の兵隊中に於て、二万人は武器で殪れ、七万五千人は病に因て殪れた、又伊太利の戰爭の時にも、武器で死んだものは、三千六百六十四人、病で死んだ者が八千六百七十四人で有ります。即ち武器で死する者よりは、病で死ぬ者の方が三倍の數で有ります。戰時に於て武器で死するよりは、却て病で死するものは多いと云ふはいつの戰爭にも免れ難い事なので御座います。現に今回の戰爭に就ても、負傷者は成歡の役にも、（殊に成歡の役に於ける負傷者は少ないが）余り澤山は無い。又平壤の役に於ても負傷者は五百名有るが、其外に發病者が非常に多い斯くの如く戰爭の際に於ては武器の爲めに死亡するものよりは、病の爲めに死ぬ者の方が多いので有ります。併なから漸々衛生上の事が進歩しますると、幾分か病の爲めに死ぬ者が減じて來る。例之ば、普佛戰爭の時には、餘程衛生上の事も進歩して參りましたから、此際には武器で殪れた者が二万八千人で、病で殪れた者か一万人で有ります、是れだけ、前とは違ッて參りました。デ今回の時變に就ては、世界萬國が東洋の天地に注目して居りますが、私は此際單に戰爭の上に於て、宇内の注目を惹くのみならず、萬般の事に就て一變を來たすで有らうと思ひます。殊に衛生學上幷に醫學上に

取りましては、極めて智識を練磨すべき時で有ります。ソレと云ふのは、我々の專門なる外科醫術は、僅か五六年の間に於て、非常に改革を致して居ります。而して其昔日と異ッて居る點と云ふのは、前會に出席致しました時、消毒の事などに就て、其異て居る條件を述べましたが、先づアヽ云ふ風に昔日とは違ッて來たので有ります。ソレで改良されて以來、未だ鮮て外科學を戰爭の負傷者に用ゐた事はない夫故我々醫學社會に取ると。此戰爭は、世界に向つて、此學問の愈々確實であると云ふ事を證據立てる好機會となつて居ります、曩者石黑衛生部長より、此際軍醫たるものは、最も注意を加へて、良い成績を得なければならぬと云ふ事を訓令せられた。而して其治療法は、「何等の學說を抱持する者と雖も、此際負傷者を治療するに當ッては、防腐外科に因て治療を施せ」と云ふ事を訓令せられました。是等は、實に今回の事件と云ふものは、今後我醫學の上に非常に大なる經驗を積むべき時で有ります。此際に於て、幸に良成績を得て、負傷者は大抵治ると云ふことであれば、益々我邦醫學の進步を世界に發表する事になります。且つ又既に此防腐法を信じて居る醫師等も、一層力を強くして病人を扱ふ事が出來る。隨分廣島の病院には、見るも殘酷な傷を負ふた者が澤山に入院して居ります、成歡の戰ひの時に負傷した者で、頸から這入ッた銃丸が後の方に突き貫ぬけたので是れは醫師の方では、穿貫銃創と云ふので有りますが、是等は技としては隨分に重傷で有りますが、是れも全治する事が出來る見込みであるさうで御座います。

（以下次號）

# ●日清戰爭と生徒の衞生

醫學士 三嶋通良君

久々で皆樣の御機嫌の麗しい御顏を拜し申して、なを御話を申上ける事になりました殊に今日は總裁殿下にも御臨場あらせられまして、私に取りましては甚だ名譽の事と存します。今日、私が皆樣に向ッて御話を申上げまする事柄は、目下の日清の戰爭に關して、我儕同胞殊に衞生學者たる者の最も注意すべき事は何であるか、果我儕か御國の爲めに、現在及び未來に於て盡くす可き職務は何であるかと申す事で御座ります。

抑々此度の日清の戰爭と云ふものは、實に今後東洋の局面に大變化を來たす可き一大破裂で有ります。今日の日本及今日の朝鮮并に支那と云ふものは、此戰爭の爲めに非常の變化を生ずるで有らうと思ひます、また生せさる可らざる次第であります而して此戰爭は元來東洋に於ける或る一部の懦弱なる人間の眠りを覺し、眞個の文明の關を造り、美しき華を咲かせ、香しき實を結ばせる春秋を來たす可き大刺激で有ります。然して此度の戰爭は、我英聖文武なる　天皇陛下より下し賜はりたる詔勅にも有る通り、彼の支那と云ふ頑固蒙昧なる國を、たゞ酷い目に遇せると云ふ趣意ではない。全たく東洋將來の平和を保有せんと云ふ理由が有ッて起ッたのではあります。即はち聖意の存するところも、東洋の平和を永遠に克復し、以て帝國の光榮を全たからしめむことを期す」と仰せられて御座います。實にア丶云ふ道理のわからぬ馬鹿な奴が東洋の中にあッては、此方までが將來迷惑をしなければならぬから、能く諭して、是れから

は正しく人間の道を守る樣にさせると云ふのが趣意で、即ち將來東洋の人間が相互に手を携ふて、睦しく生活すると、同時に日本帝國の光榮を世界に輝かすと云ふのが目的で有ります。併しながら勝負は兵家の常であるから、勝ッても驕る可らす、負けても怖る可らずではありますが、さて誰しも負ける事は嫌ひである。而して今回の戰爭の如きは、必ず我邦の捷利になると云ふ事は、何れも信じて疑ひませぬソレなればチャン〳〵を取挫いで北京の城下に首根を捉へて、恰も水瓜畑の中に這入ッた樣な處に於て、種々の盟を爲さしめ、償金を取りさへすれば、ソレで勝ッたのであるかと云ふに勿論、戰爭だけは此にて勝ッたには相違ないが、之を以て私は未だ全く安心をすると云ふことは出來ないと考ひます此だけではなは帝國の光

榮を世界に輝かすには不滿足であります、即ち終局の勝ちとは、勝ちの上の勝ちでなければななぬ。勝ッて兜の緒を占めろとは此處の事であつて、一時戰に勝ッて償金さへ取れば、ソレで我の大捷利で有ると思ッて安心をして仕舞ッては往けない。戰爭に勝ッた後ち、愈々進んで日本帝國を富強ならしむる將來の方策をも考へて置かなければならぬ。若しチャン〳〵をひどい目に遇はせる事にのみ力瘤を入れて戰爭に勝ち、償金を取ればソレでモウ宜しいと云ふて大安心をして、將來に對する考案もなにも立てぬやうでは今後如何なる反動を釀し來るやも知れませぬ。デ、我日本國の制度として、戰爭をする人は主ら戰鬪をなし負傷者を治療する者は主ら治療を擔任し、糧食を送る人は、送る人と各分業法で、嚴かに規律が立ッて

居ッて各其職務を盡して居るので有りますから、我々普通の國民たる者の職務としては、陛下の詔勅を奉戴して一心協力戦爭をして大捷利ならしむるのみならず、其の勝の勝に於ける方法を講じで置かなければならぬ。

一体戦爭と申しましても、單に兵器を以て爭ふばかりが戦爭でない、我々も日々戦爭をして居るので有ります、而して其戦爭にはいろ〳〵の種類が有ります。生存競爭と申しますのは日々の生活、若くは職業に就て競爭するので、また優勝劣敗とも申します。其他人間の生きて居る間は、病と云ふものとも戦はなければならぬ。今日のやうに急に時候が變じて、甚だしく冷氣を催して來た時などは、感冒と云ふ敵が襲ふて參ります。即ち人間のからだが感冒と戦をしなければならぬ。腸胃の病の流行する時分には、此病とからだが戦爭をして、之に冒されぬやうにしなければならぬ。つまり疾病と身體とか始終戦をして居ッて、何方か強い者の方が勝つのでございます、之を他の者に譬へて見ますると、皆様の非常に御愛翫になりまする梅の如きものも、文人墨客は臥龍梅は樹が古く、ひねくれて居つて苔の著いた處に花の咲く工合は、實になんとも云はれないと云ふて賞翫致しまするが、アレを私共の眼より見ると、樹が衰弱して仕舞ッて、幹の周圍に苔が附着したのは即ち黴菌が著いたので、爲めに花は小さく萎縮して少しも見處が無い病木でありますのです。ソレに反して若木の梅で盛の樹に肥料も充分に加へましたものは、決して苔なとの著く處へもなく、從ッて花も大きく、香氣も馥郁と致して居ります。

又臥龍梅の樣に周圍から苔が著き即ちバクテリヤの爲めに幹の營養を段々に食ひ取られ丶ばいよ〳〵木が衰弱します、從つて花はいぢけ、實はならぬと云ふ結果になります、文人墨客などは何を以て此花を賞するのであるか、我儕のやうな野夫には更に解らない。併し文人などは共に衛生を語るに足らぬもので、素より相手にはなりません。さて人間の身神も丈夫でありさえすれば百難を避けて往く事が出來ます。例之ば我々が呼吸して居る空氣の中には、澤山に病氣の種が這入ッて居る。然るに之を避ける事が出來るか出來ないかと云ふに、此方の身体が丈夫の間は、たとへ此病素のからだの中に這入ッても消化して往くことが容易く出來ますが、若し少しにても弱みが有ると、からだの中に這入ッた病素はいよ〳〵蔓延て往くと云ふ次第になッて參ります。ソレでありますから、實際に兵器を取ッて戰ひはせざるにもせよ、人間日々の生活は、矢張り戰をして居るやうなもので有ります。そこで海陸軍の爭をするのは軍人の職分でありまして、疾病に對する戰の相手になるものは、我々醫師で有ります。仮りに素人方は日々疾病と戰爭をする事としたら先づ其兵法は別らず、兵器はなし誠に迷惑故、醫師に任せられて、醫師が陣頭に立つて、戰を致すのでありますつまり我々は病氣に對する戰闘員で有ります。例之ば先頃黑死病研究の爲め、香港に派遣を命せられた青山君は、遂に黑死病軍の砲擊に遇はれまして、吾人共に蔭ながら憂慮致したので有りますが、幸に天運强くして、藥石効を奏して此程歸朝され非常の名譽を世界に輝かされましたので御座

いますが、是れ即ち靑山君が軍隊の司令官と爲つて黑死病軍に打勝たれたのであります。然るに敵の彈丸に命中して將に死に垂んとしたが、幸に助かつて大なる名譽を得られたので有ります。又海軍軍令部長の樺山君が指揮せられたる西京丸は定遠鎭遠の三十三珊の砲擊を受けて、非常に困難をしたが、遂に敵艦の間を切り拔けて、非常の偉効を奏され光榮赫々と一回歸朝されましたのと恰も同一で有ります、樺山君は海軍に戰をされ、靑山君は疾病に戰をされたのであります。兎に角近來好一對の偉効で有らうと思ひます。軍に對して戰ふのは軍人の務め、病に對して戰ふのは醫師の務めで有ります。併ながら戰ひを致すにも、無暗にすると云ふ譯には往きませぬ。先づ事を爲す前に當て、此事は果して成就するか、成就せざるかと云ふ事を特と考へなければならぬ。御承知の通り、孫子の兵法に、『夫れ未だ戰はずして廟算勝つ者は算を得多きなり、未戰はずして廟算勝たざる者は算を得る少きなり、算多きは勝ち、算少なきは勝たず、而るを況んや算無きに於てをや、吾此に於て之を觀る、勝負見はる』と云ふ事が申して有ります。先づ最初に勝てるか勝てないかと云ふ事を考へて置かなければならぬ。兵器を以て戰ふ事は暫く措いて、我儕は疾病に對して戰ふだけの準備が出來て居るか居ないかと云ふことを考へなければならぬ。先づ第一に他國と比較して、日本人と云ふ人種の身體の相場はドノ邊に在るかと云ふ事を知るのが必要で有ります。

扨て世界中の人種の中で、一番に體格の良いのは、北亞米利加の印度人で有ります。同人種は身の丈

百七十二、五センチメートル（五尺七寸）、南亞米利加の白人種は百七十一、八センチメートル（五尺六寸七分）、次に歐羅巴洲中で一番体格の惡るいのはイスパニヤ人種であります。即ち百六十六、二センチメートル（五尺五寸）、さて日本人はどうかと云いふと誠に御氣の毒だが、歐羅巴中の最下等のイスパニヤ人よりも一歩劣ッて居る。則ち日本の成人は……私は未だこどもの仲間で成人では有りませぬから、左樣御覽置きを願ひます。（成人とは、三十五歳より四十五歳までを云ふ）。其成人の身の丈は、百五十九、センチメートル則ち（五尺二寸五分）北亞米利加の印度人に比較して劣る事六寸五分、歐羅巴に於て一番低いイスパニヤ人に比べても二寸五分足りない。然らば皆樣が日頃侮ッて居らるゝ豚尾漢はドウかと云ふになか〳〵丈は高いのであります、身体の大きい小いの論に至つては、日本人は支那人にも叶はない、唯、氣力の勇健なるに因て「戰爭にも勝つて居りますが、一個人として體格力量を比較しては、殘念ながら日本人の方が劣ッて居ります、誠に生憎で有りますけれども、支那人のからだを量ッたものが見えませぬ。朝鮮人の体格は、日本の某軍醫が測られた處では五尺九寸五分であるさうでございます、此身の丈五尺九寸五分の朝鮮人と日本人とを比較して見ても朝鮮人の方が七寸高ウ御座いますソレ故かどうか兎角朝鮮人が日本人を馬鹿にするのは身体の爲めださうで御座いますが、誠に殘念の事と思ひます、山椒の實は小さくても辛いと云ふ事を申しますが、併平均にして五六寸低いとしては鳥渡一見しましても、隨分に差のあるもので

ございます。故に朝鮮に對しても体格の方では口をつぐんで居らなければならぬ。

体重は又別のものでありまして、獨逸人の六十五キロ（十七貫三百匁）に對する日本人は五十五キロ即ち二貫六百六十匁の差で御座います。兵士は男子中最も强壯の者を選んだのでありますが、獨逸の兵と日本の兵とは恰度一貫目も違う。此差違はなか〳〵少なからぬ事で有ります。

（未完）

## 雜報

今回日清交戰の事あるに當り本會は會員に左の緊急會告を出し委員を撰びて軍隊用戎服のチョッキ献納の事を圖りしに義侠なる會員諸氏は皆奮ふて贊成せられ多用の折柄徹夜をなされた方もあるべく而して其仕立て上げたる總數は無慮三千七百七十六枚に達し且又金品等を寄附せられたるものも多し詳細は別項記する處によりて一覽せられんことを本會より發したる緊急會告左の如し

今般日清交戰の事あるに當りて夙に異域に派遣せられたる我勇武なる海陸の軍隊は今や海に陸に連戰連勝を得たり皇國の光榮之に過ぐるものなし然りと雖今回の事件たる我國未曾有の大戰にして皇國の威武を海外に輝かすも亦此一擧にあり此時に當り國民一致團結して各及ぶ丈の力を盡し軍隊の勞苦を慰めざるべからず本會の如きも又婦人の一團体なれは各應分の力を盡さんと欲し種々計畫せしが清韓の地は是より寒氣日増に甚だしくて軍隊の勞苦も又一層の事なれば本會は專ら會員の力

により左の方法を以て絨服用の下着を製し以て恤兵部へ献納せんとす義侠ある會員諸氏猶ふて賛成あらん事切望に堪へざる處あり

○右の主意により會員の有志者へ綿入チヨッキ裁縫を依托し下着原料の木綿は本會之を支辨し糸幷に綿は會員の寄附とせり

○又原料の木綿は下着樣に切斷し綿を添へて本會委員より送附の事となし有志會員は各區受持の委員宿所へ御申越次第直ちに送附することゝなせり但し篤志により下着の切地幷に糸綿共御寄附の義は勿論御隨意とし其裁縫物は去月二十五日を限り御調製の上各區委員の宿所迄御持參を願ひ發送することゝなせり

○今恤兵品發送の順序を記さんに本會員有志者より軍隊へ寄贈せられたる裁縫物は去月廿五日までに各區委員の宿所まで夫々御送付に付同二十七日午後一時より富士見倶樂部に於て役員會を開きたり同日各區委員には會員よりの恤兵品を荷車或は人力車十數輛に積載して來場せられたり先づ之を同倶樂部の樓上に積み重ねしか其總數三千七百七拾六枚の多きに達し流石に廣き樓上の一室も幾んど充滿するばかりなりきさて夫れより役員一同は其數を計算し或は本會の印章をチヨッキへ捺印する等非常繁忙を極めしか皆々手の傷むを覺へす熱心に盡力せられたり送付の準備既に整ひたれば陸軍省より承認狀を受け直ちに發送の筈にて徹宵して荷造りをなせしが折柄軍隊の出發に際せるを以て時日を費せしも赤十字社へ依賴して送付の便宜を圖り去る七日漸く滊車開通の報に接せるを以て本會々長の名義にて下の關陸軍貨物廠宛發送せり當日は午前九時より五輛の車に山の如く積み重ね眞先には大日本婦人衛生會恤兵部献納の旗を立て續いて其他の小旗を各車に付し赤十字社の紹介によりて新橋に廻送せしが幸ひ哉同日直ちに積込みを終り午后九時發の滊車にて發送せり同品は婦人

衛生會員諸子の手づから裁縫せられたるものなればば定めて義勇兵士の硝煙彈雨の間にありて感涙に咽び益々其志氣を鼓舞せらるゝ所あるべし

◉本會々長の名義を以て軍隊へ寄贈せし陸軍省よりの承認狀左の如し

第一四五〇三號

承　認　狀

一金巾地綿入チヨッキ　三千七百七十六枚

右報國恤兵の主旨を以て寄贈の趣承認候現品は下の關貨物廠へ送付可有之候也

明治二十七年十月廿四日

陸軍恤兵監陸軍騎兵中佐正六位勲四等大藏平三㊞

大日本婦人衛生會々頭

子爵夫人　土方龜子殿

◉又赤十字社より本會々頭宛の領收證左の如し

請第三五三號

一金巾地綿入チヨッキ　三千七百七十六枚　荷數二十五個

右正に請取速に下の關貨物廠へ送達可致仍て證書如此候也

明治廿七年十一月七日　日本赤十字社㊞

土方龜子殿

本社に送達を委托せられたる恤兵寄贈品にして本社に集積中又は送達途中に於て萬一避く可からざる天災或は盜火難に罹りたる時は本社は辨償の責に任せず

## 恩　賜　金

一金三拾圓

右は今回本會に於て陸軍恤兵部へ軍隊用綿入チヨッキ献納に就き本會總裁　小松若宮御息所殿下より該費中へ御恩賜に相成候に付謹んで會員諸氏に御報道申上候也

○有志會員等より軍隊への寄贈左の如し

## 麴町區

| 姓名いろは順 | 稱別 | 原料悉皆及仕立寄附（枚） | 仕立及糸寄附（枚） | 切地寄附 | 綿糸及仕立寄附（枚） | 綿寄附（枚） | 寄附金（圓十錢） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 嚴谷もと子 | 會員 | 二五 | | | | | |
| 伊東ゆき子 | 仝 | | 四〇 エリ六本 | | | | 二〇〇 |
| 飯田たづ子 | 仝 | 一五 | 二 | | | | |
| 橋本さたを子 | 仝 | 五 | 五 | | | | |
| 西尾きやう子 | 仝 | 一〇 | 一 | | | | |
| 穂積まつ子 | 仝 | 二〇 | | | | | |
| 別役ゆか子 | 仝 | | 四 | | | | 一〇〇 |
| 得能純子 | 仝 | | 四 | | | | |
| 長郷ちよ子 | 仝 | 五 | 三 | | | | |
| 大久保きみ子 | 仝 | | 三 | | | | 三〇 |
| 小田まつ子 | 仝 | 六 | 五 | | | | |
| 岡野いく子 | 仝 | 五 | 五 | | | | |
| 奥村と代子 | 會員外 | | 三 | | | | |
| 岡村静枝子 | 會員 | 三 | 一四 | | | | |
| 丘村きよ子 | 仝 | | 二 | | | | |
| 加藤すゞ子 | 仝 | | 一 | | | | 一〇〇 |
| 神山まさ子（男爵夫人） | 仝 | | | | | | 一〇〇 |
| 神山あき子 | 會員外 | | | | | | 五〇 |
| 金澤たか子 | 會員 | 五 | | | | | |
| 金澤とき子 | 會員外 | 三 | | | | | |
| 河本かめ子 | 會員 | | 四 | | | | |
| 樫村えい子 | 仝 | 一〇〇 | 一 | | | | |
| 加藤常子 | 仝 | 一〇 | 六 | | | | 一〇〇 |

| 姓名 | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 姓名取調中 | 會員 | | 五 | | | | |
| 吉武てる枝子 | 仝 | | 八 | | | | 二〇〇 |
| 吉田えつ子 | 會員外 | | 二 | | | | |
| 田中わか子（栢原ひさ子召使） | 仝 | 一 | | | | | |
| 鷹司じゆん子（公爵夫人） | 會員 | 五〇 | | | 一 | | |
| 植村たへ子 | 仝 | | | | 二 | | |
| 高島つる子 | 仝 | 四〇 | | | | | |
| 佃　うめ子 | 仝 | 二 | | | | | |
| 津田たま子 | 仝 | 一〇 | | | 一 | | |
| 坪井くに子 | 仝 | | 五 | | | | 三〇 |
| 長森ひで子 | 仝 | | | | | | 一〇〇 |
| 中橋えつ子 | 仝 | 五 | | | 一 | | |
| 鍋島えい子（侯爵夫人） | 仝 | 一〇〇 | | | 一 | | |
| 中村はる子 | 仝 | 九 | | | 一 | | |
| 名倉てつ子 | 仝 | | | | | | 一〇〇 |
| 長田しき子 | 仝 | | 二〇（エリ十本） | | | | |
| 野田せい子 | 仝 | | | | | | 二〇〇 |
| 馬屋原ひさ子 | 仝 | 三〇 | 二 | | | | |
| 楠　こと子（山本たき子方） | 會員外 | 一 | | | | | |
| 栗塚りやう子 | 會員 | 五 | | | 一 | | |
| 山本たを子 | 仝 | 六 | | | | | |
| 山田ます子 | 仝 | 三 | | | | | |
| 矢守つや子 | 仝 | | 三 | | 一〇 | | |
| 矢島かぢ子 | 仝 | | 二 | | | | |
| 山縣たか子 | 仝 | | | | 四 | | |
| 松田のぶ子 | 仝 | | | | | | 二〇 |
| 松村ひさ子 | 仝 | 三 | 四 | | | | |

雜報

| 種別 | 原料悉皆及仕立寄附（枚） | 仕立及糸寄附（枚） | 切地寄附 | 綿糸及仕立寄附（枚） | 綿寄附（枚） | 寄附金（圓 十錢） | 姓名（いろは順） |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 會員 | | | | | | 二〇〇 | 牧野しん子 |
| 仝 | | 二 | | | | | 福永ちか子 |
| 會員外 | | 二 | | | | | 藤村はる子 |
| 仝 | 一 | | | | | | 山本たな子方 福原つる子 |
| 會員 | | | | 二〇 | | | 公爵夫人 近衛貞子 |
| 仝 | 五 | | | 一 | | | 小山田かだ子 |
| 仝 | 二〇 | | | | | | 木場こゆり子 |
| 仝 | 九 | | | 一 | | | 葦原のぶ子 |
| 會員外 | 一 | | | | | | 山本たな子方 足立定子 |
| 會員 | 一〇 | | | | | | 相原ひさ子 |
| 仝 | 三 | | | 二 | | | 渥美とみ子 |
| 仝 | 二〇 | | | | | | 伯爵夫人 西郷きよ子 |
| 仝 | 二〇 | | | 一 | | | 坂谷こと子 |
| 仝 | 五 | | | 六 | | | 北代こう子 |
| 仝 | | | | 二 | | | 濟田わい子 |
| 仝 | | | | 九 | | | 北澤のぶ子 |
| 仝 | | | | 九 | | | 北澤菊子 |
| 仝 | | | | 五 | | | 子爵夫人 三好うめ子 |
| 仝 | 二〇 | 一 | | | | | 三浦とき子 |
| 仝 | | | | 二 | | | 三井晴子 |
| 會員外 | 一 | | | | | | 山本方 嶋本まつ子 |
| 會員 | 一〇 | 五 | | | | | 侯爵夫人 四條はる子 |
| 仝 | | 三 | 白金巾二釜 | | 八百目 | | 子爵夫人 土方龜子 |
| 仝 | | 三 | | | | 一〇〇 | 秀島つね子 |

| 種別 | 原料悉皆及仕立寄附 | 仕立及糸寄附 | 切地寄附 | 綿糸及仕立寄附 | 綿寄附 | 寄附金 | 姓名いろは順 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 仝 | 四 | | | | | | 廣瀬りき子 |
| 仝 | 一〇 | | | | | | 日高りき子 |
| 仝 | | | | 五 | | | 弘田まする子 |
| 會員外 | 一 | | | | | | 平松とよ子（相原ひさ子召使） |
| 會員 | 五二 | | | | | | 森ひろ子 |
| 仝 | | | | | | 二〇〇 | 鈴木てる子 |
| 仝 | | 四 | | | | | 森川香雨子 |

神田區

| 種別 | 原料悉皆及仕立寄附 | 仕立及糸寄附 | 切地寄附 | 綿糸及仕立寄附 | 綿寄附 | 寄附金 | 姓名いろは順 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 枚 | 枚 | | 枚 | 枚 | 圓 十錢 | |
| 會員 | 二 | | | 二 | | | 池田きね子 |
| 仝 | 二 | | | 五 | | | 伊藤喜美榮子 |
| 仝 | | | | 二 | | | 岩井淺江子 |
| 仝 | 一〇 | | | 六 | | | 濱田すて子 |
| 仝 | | | | 二 | | | 原八重子 |
| 仝 | | | | 九 | | | 西邑せつ子 |
| 仝 | | | | 二 | | | 星野てい子 |
| 仝 | | | | 八 | | | 得能純子 |
| 仝 | | | | 二 | | | 谷口よし子 |
| 仝 | | | | 二 | | | 高瀬みき子 |
| 仝 | | | | 二 | | | 田中こう子 |
| 仝 | | | | 二 | | 二 五〇 | 田村長子 |
| 仝 | | | | 五 | | | 高木鐐子 |
| 仝 | 一 | | | 二 | | | 中田さき子 |

雜報

| 姓名いろは順 | 種別 | 原料悉皆及仕立寄附 | 仕立及糸寄附 | 切地寄附 | 綿糸及仕立寄附 | 綿寄附 | 寄附金 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 枚 | 枚 | | 枚 | 枚 | 圓 十錢 |
| 角田榮子 | 會員 | | | | 六 | | |
| 内田万壽子 | 仝 | | | | 七 | | |
| 山崎すゞ子 | 仝 | | | | 二 | | |
| 松屋竹代子 | 仝 | 一〇 | 二 | | | | |
| 馬嶋園子 | 仝 | 五 | | | 二 | 一 | |
| 戸渡つる子 | 會員外 | 三 | | | | | |
| 秋元宗子（子爵夫人） | 會員 | 五〇 | | | | | |
| 青山こう子 | 仝 | 一〇 | | | 二 | | |
| 秋間たい子 | 仝 | | | | 二 | | |
| 阿部みち子 | 仝 | | | | 二 | | |
| 佐々木みね子 | 會員外 | | 一〇 | | | | 二 〇〇 |
| 佐々木芳子 | 會員 | 一〇 | 一二 | | | | |
| 宮本樂子 | 仝 | 一〇 | 八 | | | | |
| 三浦をしへ子 | 仝 | | | | 二 | | |
| 清水梅子・稻垣光子 | 仝 | | | | | | 五〇 |
| 森村はる子 | 仝 | | | | 二 | | |
| 鈴木雅子 | 仝 | | | | 二 | | 一 〇〇 |

醫科大學第二醫院看護婦（内科）

| 姓名いろは順 | 種別 | 原料悉皆及仕立寄附 | 仕立及糸寄附 | 切地寄附 | 綿糸及仕立寄附 | 綿寄附 | 寄附金 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 枚 | | | | | |
| 伊佐次しよう子 | 會員外 | 一 | | | | | |
| 伊藤かね子 | 仝 | 三 | | | | | |
| 橋本たけ子 | 仝 | 一 | | | | | |
| 細野つき子 | 仝 | 二 | | | | | |

| 氏名 | 枚 | |
|---|---|---|
| 大井田りよう子 | 三 | 仝 |
| 岡田つゆ子 | 二 | 仝 |
| 小川つる子 | 二 | 仝 |
| 若原よう子 | 一 | 仝 |
| 川崎むめ子 | 二 | 仝 |
| 川鍋まず子 | 三 | 仝 |
| 金子ふみ子 | 二 | 仝 |
| 金子みき子 | 二 | 仝 |
| 田村ちよう子 | 二 | 仝 |
| 中川ゑつ子 | 一 | 仝 |
| 中山こう子 | 二 | 仝 |
| 中村すみ子 | 二 | 仝 |
| 永井ふじ子 | 一 | 仝 |
| 六嶋しも子 | 二 | 仝 |
| 村田みち子 | 二 | 仝 |
| 内山くら子 | 三 | 仝 |
| 關東くに子 | 二 | 仝 |
| 山崎つね子 | 二 | 仝 |
| 山田はる子 | 一 | 仝 |
| 戸室いね子 | 一 | 仝 |
| 小崎つる子 | 三 | 仝 |
| 小林すゝ子 | 三 | 仝 |
| 越澤そと子 | 一 | 仝 |
| 小嶋みち子 | 一 | 仝 |
| 青木はる子 | 二 | 仝 |
| 朝倉ふみ子 | 二 | 仝 |
| 左原さく子 | 二 | 仝 |
| 西郷さた子 | 一 | 仝 |
| 木島みの子 | 二 | 仝 |

| 種別 | 原料悉皆及仕立寄附 | 仕立及糸寄附 | 切地寄附 | 綿糸及仕立寄附 | 綿寄附 | 寄附金 | 姓名いろは順 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 枚 | 枚 | | 枚 | 枚 | 圓十錢 | |
| 會員外 | 二 | | | | | | 水嶋すゞ子 |
| 全 | 二 | | | | | | 宮山ひて子 |
| 全 | 二 | | | | | | 宮はお子 |
| 全 | 二 | | | | | | 鹽崎せい子 |
| 全 | 一 | | | | | | 海老原きち子 |

## 醫科大學第二醫院看護婦（外科）

| 種別 | 原料悉皆及仕立寄附 | 仕立及糸寄附 | 切地寄附 | 綿糸及仕立寄附 | 綿寄附 | 寄附金 | 姓名いろは順 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | 枚 | | | | | | |
| 會員外 | 三 | | | | | | 速水さとえ子 |
| 全 | 一 | | | | | | 林まつ子 |
| 全 | 一 | | | | | | 川井ふみ子 |
| 全 | 一 | | | | | | 横山てる子 |
| 全 | 一 | | | | | | 吉澤みの子 |
| 全 | 一 | | | | | | 高木こと子 |
| 全 | 一 | | | | | | 田中むめ子 |
| 全 | 一 | | | | | | 中野しけ子 |
| 全 | 三 | | | | | | 永田みさほ子 |
| 會員 | 三 | | | | | | 村上れん子 |
| 會員外 | 一 | | | | | | 梅若かざし子 |
| 全 | 一 | | | | | | 内田ふく子 |
| 全 | 一 | | | | | | 植地ちよ子 |
| 全 | 一 | | | | | | 登戸ちよ子 |
| 全 | 二 | | | | | | 八戸りう子 |
| 全 | 一 | | | | | | 松岡ゑい子 |

| 姓名いろは順 | 種別 | 原料悉皆及仕立寄附 | 仕立及糸寄附 | 切地寄附 | 綿糸及仕立寄附 | 綿寄附 | 寄附金 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 二葉てふ子 | 仝 | 一 | | | | | |
| 小池きよ子 | 仝 | 三 | | | | | |
| 小林つる子 | 會員 | 二 | | | | | |
| 赤堀たか子 | 會員外 | 三 | | | | | |
| 新井のふ子 | 仝 | 三 | | | | | |
| 齋藤とき子 | 仝 | 一 | | | | | |
| 木屋たけ子 | 仝 | 三 | | | | | |
| 菊岡さい子 | 仝 | 三 | | | | | |
| 三橋むめ子 | 仝 | 二 | | | | | |
| 水野せん子 | 仝 | 一 | | | | | |
| 日下しつ子 | 會員 | 二 | | | | | |
| 關てい子 | 仝 | 二 | | | | | |
| 杉田わか子 | 會員外 | 一 | | | | | |
| 無名氏 | 仝 | 一 | | | | | |

## 日本橋區

| 姓名いろは順 | 種別 | 原料悉皆及仕立寄附 | 仕立及糸寄附 | 切地寄附 | 綿糸及仕立寄附 | 綿寄附 | 寄附金 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | 枚 | 枚 | | 枚 | 枚 | 圓十錢 |
| 林つる子 | 會員 | | | | 二 | | |
| 大森八重子 | 仝 | | | | 二 | | |
| 金杉松子 | 會員外 | 五 | 二 | | | | |
| 高橋孝子 | 會員 | | | | 二 | | |
| 高橋瑞子 | 仝 | | | | 一〇 | | |
| 野澤定江子 | 仝 | | | | 一〇 | | |
| 國井やす子 | 仝 | | | | 四 | | |
| 山田染子 | 仝 | | 二 | | | | 五〇〇 |

# 京橋區

| 種別 | 原料悉皆及仕立寄附（枚） | 仕立及糸寄附（枚） | 切地寄附 | 綿糸及仕立寄附（枚） | 綿寄附（枚） | 寄附金（圓 十錢） | 姓名いろは順 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 會員 | | | | 二 | | | 安井小糸子 |
| 仝 | | | | 一〇 | | | 蘆田みさほ子 |
| 仝 | | | | | | 一〇〇 | 齋藤定子 |
| 仝 | | | | 二 | | | 岸すゑ子 |
| 仝 | | | | 四 | | | 宮田けい子 |

| 種別 | 原料悉皆及仕立寄附（枚） | 仕立及糸寄附（枚） | 切地寄附 | 綿糸及仕立寄附（枚） | 綿寄附（枚） | 寄附金及物品（圓 十錢） | 姓名いろは順 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 會員 | 九 | 一 | | 五 | | | 池田よね子 |
| 仝 | | 五 | | 五 | | | 石崎ひさ子 |
| 仝 | | | | 二 | | | 石川さと子 |
| 仝 | | | | 二 | | | 石川さだ子 |
| 仝 | 六 | 一 | | | | | 佐房千鶴子 |
| 仝 | | 一 | | | | | 原みつ子 |
| 仝 | | | | | | 三〇〇 | 西ます子 |
| 仝 | | 六 | | | | 一〇〇 | 西きよ子 |
| 仝 | | 一 | | | | 手拭三筋 | 堀越しあ子 |
| 仝 | 三 | 一 | | | | | 岡田ひで子 |
| 仝 | | 糸一把 | 晒木綿三反 | | 青梅綿五袋 | | 岡崎喜代子 |
| 仝 | 五 | 一 | | | | | 高山らく子 |
| 仝 | 二 | 一 | | | | | 高石とみ子 |
| 仝 | | 一 | | | | | 田中みちへ子 |
| 仝 | 一〇 | 一 | | 二 | | | 高崎妙子 |

| 姓名いろは順 | 種別 | 原料悉皆及仕立寄附 | 仕立及糸寄附 | 切地寄附 | 綿糸及仕立寄附 | 綿寄附 | 寄附金 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 高木富子 | 會員 | | | | 四二 | | |
| 多田なを子 | 仝 | 二 | 二 | | | | |
| 瀧川あさ子 | 仝 | | | | 三 | | |
| 圖師さよ子 | 仝 | | 一五 | | | | |
| 浦島てい子 | 仝 | 九 | 一 | | | | |
| 桑名ふじ子 | 會員外 | 一 | | | | | |
| 山川すま子 | 會員 | 二 | | | 三 | | |
| 山本みつ子 | 仝 | | | | 二 | | |
| 福原こく子 | 仝 | | | | | | 三〇〇 |
| 深井ちへ子 | 會員外 | 二 | 二 | | | | |
| 福田きね子 | 會員 | | | | 二 | | |
| 御厨富子 | 仝 | 五 | 一 | | | | |
| 塩澤よし子 | 仝 | | | | 二 | | |
| 平田よし子 | 仝 | | | | 一二 | 二 | 一〇〇 |
| 森岡きみ子 | 仝 | 一〇 | 一 | | | | |
| 瀬下薫子 | 仝 | 三 | 一 | | | | |
| 瀬脇みへ子 | 仝 | | | | 一一 | | 三〇〇 |
| 鈴木愛子 | 會員外 | | 二 | | | | |
| 三嶋通良若 | 會員 | | | | 二 | | |

芝區

| 姓名いろは順 | 種別 | 原料悉皆及仕立寄附 | 仕立及糸寄附 | 切地寄附 | 綿糸及仕立寄附 | 綿寄附 | 寄附金 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 伊東ゆう子 | 會員 | 枚 二 | 枚 二 | | 枚 | | |
| 伊東やす子 | 會員外 | 二 | | | | | |
| 嚴谷きみ子 | 會員 | | | | 一〇 | | |

雜報

| 姓名いろは順 | 種別 | 原料悉皆及仕立寄附（枚） | 仕立及糸寄附（枚） | 切地寄附 | 綿糸及仕立寄附（枚） | 綿寄附（枚） | 寄附金（圓十錢） |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 石尾きやう子 | 會員 | | 五 | | | | |
| 林口よし子 | 會員外 | | | | 四 | | |
| 原口しづ子 | 會員 | | | | | | 一〇〇 |
| 林操子 | 仝 | | | | | | 二〇〇 |
| 侯爵夫人 峰須賀瑞子 | 仝 | | 六 | | | | |
| 西山春尾子 | 仝 | | | | | | 二〇 |
| 大野春子 | 仝 | 五 | 二 | | | | |
| 田中てる子 | 仝 | | 二 | | | | |
| 高塚さと子 | 仝 | 七 | | | 五 | | |
| 室ともを子 | 仝 | | 八 | | 七 | | |
| 梅田くわ子 | 仝 | | | | | | 一〇〇 |
| 野邊地たき子 | 仝 | | | | 二 | | |
| 山田くめ子 | 仝 | | 三一 | | | | 一〇〇 |
| 安井とう子 | 會員外 | | | | 四 | | |
| 山本きせ子 | 仝 | | | | 四 | | |
| 町田榮子 | 會員 | | | | 一〇 | | |
| 小森すが子 | 仝 | | | | 二 | | |
| 小泉まち子 | 仝 | | | | 二 | | |
| 阿部優子 | 仝 | | | | | | 一〇〇 |
| 佐伯ちか子 | 仝 | 五 | 三 | | | | |
| 佐々木うめ子 | 仝 | | | | | | 五〇〇 |
| 澤とよ子 | 仝 | | | | 五 | | |
| 木村ふみ子 | 仝 | 一四 | | | | 五 | |
| 清水とし子 | 仝 | 五 | 二 | | | | 一〇〇 |
| 進とし子 | 仝 | 二五 | 二 | | | | |
| 森やそ子 | 仝 | | 一 | | 一 | | |
| 杉いそ子 | 仝 | 一〇 | 六 | | | | |

| 會員外・會員 | 姓名いろは順 | 原料悉皆及仕立寄附 | 仕立及糸寄附 | 切地寄附 | 綿糸及仕立寄附 | 綿寄附 | 寄附金 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 會員外 | 鈴木さだ子 | | | | 四 | | |
| 會員 | 圖師さよ子 | | | | 一〇 | | |

麻布區

| 會員 | 姓名いろは順 | 原料悉皆及仕立寄附（枚） | 仕立及糸寄附（枚） | 切地寄附 | 綿糸及仕立寄附（枚） | 綿寄附（枚） | 寄附金（圓） | 寄附金（十錢） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 會員 | 岩橋とき子 | 三 | 一 | | | | | |
| 仝 | 磯邊曾代子 | | 三 | | | | | |
| 仝 | 本田梅子 | | 六 | | | | | 九〇 |
| 仝 | 玉利信子 | | 一 | | | | | |
| 仝 | 玉利若子 | | 一 | | | | | |
| 仝 | 長與園子 | | 三 | | | | | 四五 |
| 仝 | 南部隈子 | | 七 | | | | 一 | 〇〇 |
| 仝 | 小倉すゝ子 | 四 | 一 | | | | | 五〇 |
| 仝 | 黒田鉄子 | | 三 | | | | | 二〇 |
| 仝 | 澤邊れん子 | 五 | 一 | | | | | |
| 仝 | 宮田みつ子 | 二 | | | | | | |
| 仝 | 三嶋和歌子 | | 三 | | | | | 四五 |
| 仝 | 関むら子 | 五 | | | | | | |

赤坂區

| 會員 | 姓名いろは順 | 原料悉皆及仕立寄附（枚） | 仕立及糸寄附（枚） | 切地寄附 | 綿糸及仕立寄附（枚） | 綿寄附（枚） | 寄附金（圓） | 寄附金（十錢） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 公爵夫人 | 一條良子 | | | | 二〇 | | | |

| 姓名いろは順 | 種別 | 原料悉皆及仕立寄附（枚） | 仕立及糸附（枚） | 切地寄附 | 綿糸及仕立寄附（枚） | 綿寄附 | 寄附金（圓） | 寄附金（十錢） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 羽田みを子 | 會員 | 一二 | | | | | | |
| 徳富靜子 | 仝 | | | | 一〇 | | | |
| 加藤つる子 | 仝 | 一〇 | | | | | | |
| 田中泰子 | 會員外 | 五 | | | | | | |
| 田中てる子 | 會員 | 七 | | | | | | |
| 竹中はる子 | 仝 | 五 | | | | | | |
| 多々羅とよ子 | 仝 | 二 | | | | | | |
| 大山捨松子（伯爵夫人） | 仝 | | | | | | 一〇 | 〇〇 |
| 沖きよ子 | 仝 | 五 | | | | | | |
| 矢野れつ子 | 仝 | 五 | | | | | | |
| 山口春野子 | 仝 | | | | 五 | | | |
| 厚東ゆき子 | 仝 | 五 | | | | | | |
| 北山つせ子 | 仝 | 二 | | | | | | |

## 四谷區

| 姓名いろは順 | 種別 | 原料悉皆及仕立寄附（枚） | 仕立及糸附（枚） | 切地寄附 | 綿糸及仕立寄附（枚） | 綿寄附（枚） | 寄附金（圓） | 寄附金（十錢） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 仁尾しけ子 | 會員 | | | | 六 | | | |
| 相馬陸子 | 仝 | | | | 一五 | | | |
| 長坂ゆき子 | 仝 | | | | 五 | | | |
| 尾崎いと子 | 仝 | | | | 五 | | | |
| 野田せい子 | 仝 | | | | | | 二 | 〇〇 |
| 山上よし子 | 仝 | | | | 一〇 | | | |

雜報

| 種別 | 原料悉皆及仕立寄附（枚） | 仕立及糸寄附（枚） | 切地寄附 | 綿糸及仕立寄附（枚） | 綿寄附（枚） | 寄附金（圓） | 寄附金（十錢） | 姓名（いろは順） |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 會員 | | | | 一三 | | 一 | 〇〇 | 馬渡たま子 |
| 仝 | 二〇 | | | 二 | | | | 伯爵夫人 松平充子 |
| 仝 | | | | 二 | | | | 栗屋武子 |
| 仝 | | | | 一 | | | | 栗屋榮子 |
| 仝 | | | | | | 一 | 五〇 | 三宅みち子 |
| 仝 | 五〇 | 二〇 | | | | | | 進道子 |

## 牛込區

| 種別 | 原料悉皆及仕立寄附（枚） | 仕立及糸寄附（枚） | 切地寄附 | 綿糸及仕立寄附（枚） | 綿寄附（枚） | 寄附金（圓） | 寄附金（十錢） | 姓名（いろは順） |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 會員 | 四 | 一 | | | | | | 伊藤こと子 |
| 仝 | 一〇 | 一 | | | | | | 板倉章子 |
| 仝 | | 一 | | | | | | 伴まず子 |
| 仝 | 二 | 一 | | | | | | 仁尾しげ子 |
| 仝 | 五 | 一 | | | | | | 沖野りう子 |
| 仝 | 一〇 | 一 | | | | | | 川田みつ子 |
| 仝 | 二五 | 一 | | | | | | 川上小代し子 |
| 仝 | 一〇〇 | 一 | | | | | | 竹屋雅子 |
| 仝 | 五 | 一 | | | | | | 高山らく子 |
| 仝 | 六 | 六 | | | | | | 奈良はな子 |
| 仝 | 二 | 一 | | | | | | 永沼さた子 |
| 仝 | 二 | 一 | | | | | | 兒玉なを子 |
| 仝 | 二 | 一 | | | | | | 澤村まさ子 |
| 仝 | 五 | 一 | | | | | | 宮本章子 |
| 仝 | 三 | 一 | | | | | | 白井鳳子 |
| 仝 | 二 | 一 | | | | | | 森安かた子 |

雜報

| 種別 | 原料悉皆及仕立寄附 | 仕立及糸寄附 | 切地寄附 | 綿糸仕立寄附 | 綿寄附 | 寄附金 | 姓名いろは順 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 會員 | 三枚 | 一枚 | | 枚 | 枚 | 圓 十錢 | 末岡さた子 |

## 小石川區

| 種別 | 原料悉皆及仕立寄附（枚） | 仕立及糸寄附（枚） | 切地寄附 | 綿糸及仕立寄附（枚） | 綿寄附（枚） | 寄附金（圓） | 寄附金（十錢） | 姓名いろは順 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 會員 | 六 | 一 | | | | | | 伊東富子 |
| 全 | 八 | 一 | | | | | | 石川さの子 |
| 全 | 二〇 | 一 | | | | | | 五十嵐常子 |
| 全 | 三〇 | 一 | | | | 二 | 〇〇 | 濱尾作子 |
| 全 | 二 | 一 | | | | | | 服部しけ子 |
| 全 | | 三一 | | | | 五 | 〇〇 | 鳩山春子 |
| 全 | 五 | 一 | | | | | | 濱欽子 |
| 全 | 五 | 一 | | | | | | 西川ふみ子 |
| 全 | 七 | 一 | | | | | | 長谷川あか子 |
| 全 | 二 | 一 | | | | | | 仁尾繁子 |
| 全 | 五五 | 一 | | | | | | 穗積うた子 |
| 全 | 一〇 | 六 | | | | | | 大谷光子 |
| 全 | 一〇 | 二 | | | | | | 大西幾子 |
| 全 | 六 | 一 | | | | | | 鷲田菊江子 |
| 全 | | 二三 | | | | 一 | 五〇 | 片山かめ子 |
| 全 | 一五 | | | 一 | | | | 田中須麻子（子爵夫人） |
| 全 | 一〇 | | | 一 | | | | 山中いよ子（子爵夫人） |
| 全 | 五 | | | 一 | | | | 曾根しん子 |

雜報

## 本郷區

| 種別 | 原料悉皆及仕立寄附（枚） | 仕立及糸寄附（枚） | 切地寄附 | 綿糸及仕立寄附（枚） | 綿寄附（枚） | 寄附金（圓） | 寄附金（十錢） | 姓名（いろは順） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 會員 | 一〇 | 一 | | | | | | 久保田八重子 |
| 仝 | 一 | 一 | | | | | | 松井とら子 |
| 仝 | 五 | 一 | | | | | | 寺田つね子 |
| 仝 | 二〇 | | | | | | | 佐藤靜子 |
| 仝 | 一〇 | | | | | | | 佐藤梅尾子 |
| 仝 | | 一〇 | | | | 一 | 五〇 | 菊池いち子 |
| 仝 | 一二 | 一 | | | | | | 木下つね子 |
| 仝 | | 二〇 | | | | 二 | 五〇 | 三宅藤子 |
| 仝 | 一〇〇 | 二 | | | | | | 三井すて子 |
| 仝 | 二 | 一 | | | | | | 島崎とく子 |
| 仝 | 一〇 | 一 | | | | | | 須田いそ子 |
| 會員 | | | 一カマ | 三〇 | | | | 石崎つる子 |
| 仝 | 六 | | | | | | | 岩永さと子 |
| 仝 | 一〇 | | | | | | | 今村末子 |
| 仝 | 二〇 | | | | | | | 今田初子 |
| 仝 | 二 | | | | | | | 伊知地ひさ子 |
| 仝 | 三 | | | | | | | 飯島つる子 |
| 仝 | | 七九 | | | | | | 石川さの子 |
| 仝 | 一〇 | | | | | | | 伊東つる子 |
| 會員外 | 一〇 | | | | | | | 石原いま子 |
| 仝 | | 三八 | | | | | | 飯盛せい子 |

雜報

| 姓名いろは順 | 種別 | 原料悉皆及仕立寄附（枚） | 仕立及糸寄附（枚） | 切地寄附 | 綿糸及仕立寄附（枚） | 綿寄附（枚） | 寄附金及物品（圓 十錢） |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 市浦りん子 | 會員外 | 二 | | | | | |
| 伴はる子 | 會員 | | | | 一九 | | |
| 八田とし子 | 會員外 | 五 | | | | | |
| 細川宏子 | 仝 | 一〇〇 | | | | | |
| 細谷夫人 | 仝 | 三 | | | | | |
| 本田せん子 | 仝 | 五 | | | | | |
| 大澤さく子 | 會員 | | | | 五 | | 一〇〇 |
| 緒方ゑつ子 | 仝 | | | | | | |
| 岡田とく子 | 仝 | | | | | | |
| 丹波さた子 | 仝 | | | 金巾一カマ | | | |
| 中濱よし子 | 仝 | | | | | | |
| 岡山とし子 | 仝 | 一〇 | | | | | |
| 大河内しけ子 | 會員外 | 一〇 | | | | | |
| 小川仙子 | 仝 | 一 | | | | | |
| 大澤せん子 | 仝 | | 一五 | | | | |
| 大西りき子 | 仝 | 一 | | | | | |
| 尾澤とく子 | 仝 | 三 | | | | | |
| 和田垣つな子 | 會員 | | | | | | 一〇〇 |
| 加藤ひて子 | 仝 | | | 切地一カマ | | | |
| 川村ねい子 | 會員外 | 一 | | | | | |
| 川田さた子 | 仝 | 五 | | | | | |
| 川口かよ子 | 仝 | 二 | | | | | |
| 田口つる子 | 會員 | | | | | | 一〇〇 |
| 田口とう子 | 會員外 | 五 | | | | | |
| 田中みや子 | 仝 | 二 | | | | | |
| 橘夫人 | 仝 | 一五 | | | | | |
| 田村きよ子 | 仝 | | 四一 | | | | |

| | | | | | | | |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 辻田さと子 | 會員 | 一〇 | | | 二五 | | |
| 津田なか子 | 仝 | | | | 一五 | | |
| 土川のふね子 | 會員外 | 三 | | | | | |
| 津田こう子 | 仝 | 二 | | | | | |
| 中島しけ子 | 仝 | 一〇 | | | | | |
| 中山數子 | 仝 | 九 | | | | | |
| 長坂ゆき子 | 仝 | 三 | | | | | |
| 長野じゆん子 | 仝 | 三 | | | | | |
| 宇佐美もと子 | 仝 | 一 | | | | | |
| 野田すみ子 | 會員 | 三四 | | 一カマ八枚分（玉り十八玉ち六） | | | |
| 吳[illegible]あ子 | 仝 | | | | | | |
| 黑田夫人 | 會員外 | | | | 四〇 | | |
| 前田朗子 | 會員 | 一〇〇 | | | | | 侯爵夫人 |
| 松平鈴子 | 仝 | 一二 | | | | | 子爵夫人 |
| 松尾良子 | 會員外 | 一 | | | | | |
| 前田夫人 | 仝 | 三 | | | | | |
| 松田ふみ子 | 仝 | 一〇 | | | | | |
| 古市幸子 | 會員 | 一〇 | | | | | |
| 深井みよ子 | 仝 | 五 | | | | | |
| 小立爲子 | 仝 | 二〇 | | | | | |
| 青木とよ子 | 仝 | | 一 | | | | |
| 榊幸子 | 仝 | 一〇 | | | | | |
| 齋田とき子 | 仝 | 一 | | | | | |
| 菊池たづ子 | 會員外 | 一〇 | | | | | |
| 久原秋子 | 會員 | 一〇 | | | | | |
| 物集りう子 | 會員外 | 一〇 | | | | | |
| 物集千代子 | 仝 | 五 | | | | | |
| 芹澤かね子 | 仝 | 三 | | | | | |
| 松崎留吉君 | 仝 | | | | | 版木一個 | |

| 種別 | 原料悉皆及仕立寄附（枚） | 仕立及糸寄附（枚） | 切地寄附 | 綿糸及仕立寄附（枚） | 綿寄附 | 寄附金（圓・十錢） | 姓名いろは順 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 會員外 | 三〇 | | | | | | 伊藤喜助君 |
| 仝 | | | | | | | 伊藤りう子 |
| 仝 | | | | | | | 伊藤はま子 |
| 仝 | | | | | | | 伊藤いさ子 |
| 仝 | 二 | | | | | | 飯塚ふさ子 |
| 仝 | 五 | | | | | | 堀留吉君 |
| 仝 | 三 | | | | | | 紅谷たか子 |
| 仝 | 五 | | | | | | 山川ます子 |
| 仝 | 五 | | | | | | 大葉ふさ君 |
| 仝 | 五 | | | | | | 渡邊米太媧君 |
| 仝 | 五 | | | | | | 加藤喜市君 |
| 仝 | 五 | | | | | | 神谷源四郎君 |
| 仝 | 一〇 | | | | | | 高橋廣君 |
| 仝 | 五 | | | | | | 永田定次郎君 |
| 仝 | 一〇 | | | | | | 内山銀次郎君 |
| 仝 | 五 | | | | | | 栗田元次郎君 |
| 仝 | 五 | | | | | | 八木音吉君 |
| 仝 | 一〇 | | | | | | 牧野善五郎君 |
| 會員 | 三五 | | | | | | 小林延之助君 |
| 會員外 | | | | | | | 小林きく子 |
| 仝 | | | | | | | 小林つる子 |
| 仝 | | | | | | | 小林きん子 |
| 仝 | 一〇 | | | | | | 荒井寅吉君 |
| 仝 | 二〇 | | | | | | 佐竹勝兵衛君 |
| 仝 | 一〇 | | | | | | 木村音吉君 |
| 仝 | 一〇 | | | | | | 鹽谷兼吉君 |
| 仝 | 一〇 | | | | | | 平野福太野君 |

| 會員 | 原料悉皆及仕立寄附 | 仕立及糸寄附 | 切地寄附 | 綿糸及仕立寄附 | 綿寄附 | 寄附金 | 姓名いろは順 |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 會員 | 五 | | | | | | 八見國子 |
| 仝 | 五 | | | | | | 森田米吉君 |
| 仝 | 一〇 | | | | | | 鈴木新兵衛君 |

下谷區

| 會員 | 原料悉皆及仕立寄附 | 仕立及糸寄附 枚 | 切地寄附 | 綿糸及仕立寄附 枚 | 綿寄附 枚 | 寄附金 圓 十錢 | 姓名いろは順 |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 會員 | 一〇枚 | | | | | | 犬養かつ子 |
| 仝 | | | | 五 | | | 井岡ふて子 |
| 仝 | | | | 一五 | | | 大森くめ子 |
| 仝 | | | | 一〇 | | | 太田いゝ子 |
| 仝 | | | | 三 | | 一 〇〇 | 和田ふく子 |
| 仝 | | | | 一五 | | | 神羽りう子 |
| 仝 | | | | 六 | | | 山川二葉子 |
| 仝 | | | | 三 | | | 齋藤政世子 |
| 仝 | | | | 一〇 | | | 佐藤らく子 |
| 仝 | | | | 三 | | | 三田あさ子 |
| 仝 | | | | 六 | | | 須田すゞ子 |
| 地方會員 | | | | | | 五〇 | 岡田みす子 |

本所區

| 會員 | 原料悉皆及仕立寄附 枚 | 仕立及糸寄附 枚 | 切地寄附 | 綿糸及仕立寄附 | 綿寄附 枚 | 寄附金 圓 十錢 | 姓名いろは順 |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| | | | | 一〇枚 | | | 中村たけ子 |

| 種別 | 原料悉皆及仕立寄附 | 仕立及糸寄附 | 切地寄附 | 綿糸及仕立寄附 | 綿寄附 | 寄附金 | 姓名いろは順 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 會員 | 枚 | 枚 | | 一〇枚 | 枚 | 圓十錢 | 榊原わや方 |

深川區

| 種別 | 原料悉皆及仕立寄附 | 仕立及糸寄附 | 切地寄附 | 綿糸及仕立寄附 | 綿寄附 | 寄附金 | 姓名いろは順 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 會員 | 枚 | | | 枚 | 枚 | 一〇圓 | 鹿嶋こと子 |
| 仝 | | | | | | 一〇 | 鹿嶋いね子 |
| 仝 | | | | 一〇 | | | 長江しけ子 |
| 仝 | 五 | | | | | | 松村鐘子 |

●右寄附表は精々注意し併せて委員諸氏の校閲を經て印刷に付し候へども混雜の際に付若し誤りも有之候へは御申越被下度次號雜誌に於て正誤可仕候也

●本會より軍隊へ寄送の件は地方會員へは遠路隔絶且又取急き候事故在京會員のみにて取計申候

●恤兵部献納に於ける各區擔當の委員左の如し

麹町區 加藤すゞ子 加藤常子 北澤信子
神田區・日本橋區 佐々木芳子 宮本樂子 濱田すて子
京橋區 西きよ子 平田よし子
芝區 清水とし子 山田くめ子
麻布區 南部くま子 長與その子
赤坂區・四谷區 羽田みを子 馬渡玉子
小石川區・牛込區 濱尾作子 鳩山春子 三宅藤子 菊池いち子 片山かめ子

本郷區 岡田とく子 丹波さだ子 緒方悅子
榊幸子 中濱芳子

下谷區
淺草區
本所區
深川區
婦人衛生會事務所

◉在本郷の小野吉二氏は本會恤兵の美擧を賞賛せられ左の歌一首を寄せられたり

送られしこの白たへをえみしらの
血しほに染めて報ひまつらん

◉大日本婦人衛生會總集會景況は次號に揭載致候

## 廣告

自明治廿七年三月 至仝八月 婦人衛生會會計報告は左の如し

一收入高 四百二十四圓七十壹錢八厘

內譯

| | |
|---|---|
| 前年度殘高 | 七圓七十六錢八厘 |
| 會費集高 | 二百七十五圓四十五錢 |
| 懇親會費 | 五十圓 |
| 講師饗應入費の內へ本會役員よりの寄附金高 | 五十壹圓五十錢 |
| 三井戾金 | 四拾圓 |

一支出高四百十壹圓七十六錢八厘

內譯

| | |
|---|---|
| 雜誌印刷料 | 九十五圓二十五錢 |
| 諸印刷料 | 九圓八十錢 |
| 會塲費 | 貳圓廿錢 |
| 郵稅 | 拾貳圓九十錢 |
| 通知端書 | 六圓 |
| 切拔通信料 | 參圓六十錢 |
| 筆墨紙料 | 參圓拾貳錢 |
| 器具費 | 貳圓六十二錢八厘 |
| 會費、雜誌、通知集配手當 | 貳拾四圓二十五錢 |
| 總會入費 | 壹圓六十六錢 |
| 速記料 | 拾圓 |
| 雜誌編輯料 | 拾八圓 |
| 事務給料 | 參拾圓 |
| 懇親會入費 | 五十貳圓六十五錢 |
| 雜費 | 六圓八十一錢 |
| 三井預金 | 四拾圓 |
| 講師饗應入費 | 九十二圓九十錢 |
| 收支差引殘高 | 金拾二圓九十七錢 |
| 三井銀行預金 | 金貳百圓 |
| 合計現在高 | 金貳百十二圓九十七錢 |

◉十月より十一月に至る入會者左の如し

◉幹事西喜代子の紹介により

牛込砂土原町壹丁目三番地 通常會員 犬養千代子
本郷金助町十三番地 仝 宮下とし子

廣告

◎會員清水とし子の紹介により
芝區西久保廣町廿八番地　通常會員　澤とよ子
◎四谷左門町七十七番地　通常會員　村山つる子
◎會員岡田ひて子の紹介により
日本橋濱町二丁目壹番地　通常會員　齋藤つる子
宮城縣伊具郡角田町　仝　松本ぬい子
群馬縣山田郡桐生町六丁目　仝　吉田和歌子
◎會員森その子の紹介により
芝區高輪臺町卅一番地　通常會員　大西靜子
◎會員塙とせ子の紹介により
第一醫院　深尾ひて子
第一醫院　平田つる子
◎會員中野悅子の紹介により
新潟旭町通壹番町二番戶　通常會員　石原さね子
新潟縣學校通壹番町廿五番戶　通常會員　渡邊ちよ子
仝二番町百〇六番戶　仝　水本鉦子
仝四百四十四番戶　仝　竹內とき子

新潟市產婆養成所　仝　中川貞子
仝　仝　曾我淑子
仝　仝　木藤瀧子
◎會員淺井梅香子の紹介により
廣嶋博愛病院　早川倉子
◎會員佐藤靜子の紹介により
上駒込二百三十二番地　通常會員　今泉幸子
本郷西片町十番地はの十號　通常會員　眞水さた子
◎評議員員片山龜子の紹介により
芝公園　通常會員　清岡かく子
◎會員大森くめ子の紹介により
第二醫院　內田ふく子
◎評議員丹波さた子の紹介により
日本橋蛎殼町三丁目十三番地　小林延之助君
◎評議員鳩山春子の紹介により
小石川指谷町　倉田香名子
◎會長土方龜子の紹介により
牛込區市ヶ谷河田町十七番地　小笠原純子
芝三田一丁目四十一番地　山路謙子
◎副會長濱尾作子の紹介により
小石川久堅町　通常會員　野村すみ子

# 私立大日本婦人衛生會規則

第一條　凡本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持するの方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ隨て社會全般の幸福を增進するにあり

第二條　本會は私立大日本婦人衛生會と稱し之を東京に置く

第三條　本會の會員たらんと欲する者は身分の貴卑を問はず何人にても入會することを得

第四條　會員たらんと欲する者は族籍住所姓名を記し本會事務所へ申込ある可し

但事務所は下谷區練塀町四十三番地に置く

第五條　本會々員を分て終身會員特別會員通常會員の三類とし共に會費金を納むる者とす

但終身會員は一時に金拾圓以上を納め特別會員は一年金二圓四拾錢以上を納め通常會員は同金壹圓二拾錢を納むる者とす尤も會員中書生及其他事故ある者は唯雜誌料として同六拾錢を納めしむ

第六條　男子にして本會の主義を賛成する者は之を賛成員とす尤も會費は本會員に同し

但本會に功勞ある者は役員の協議を以て終身賛成會員(無會費)とすること有る可し

第七條　本會に推戴員を置き其中より總裁一名を奉す推戴員は皇族の御息所等に之を申請するものとす

第八條　本會は左の役員を置く　會長一名　副會長一名　幹事七名　評議員二十名　書記若干名

第九條　會長副會長及幹事評議員は會員の投票を以て之を撰擧し書記は幹事の推撰により會長之を命ず

但書記は都合により會員外の婦人又は男子に托することあるべし

第十條　會長は本會を總理し副會長は會長を補佐し又は其代理をなし幹事は會長の命を受けて會務を處理し評議員は重要なる會務を評議し書記は役員の命に從て諸記錄及雜務を掌る

但幹事の分課を設けて　第一　會計　第二　編輯出版　第三　庶務とす

第十一條　會長の見込を以て右役員外に會員中より臨時に指名委員を置くことあるべし

第十二條　會長副會長及幹事評議員の任期は一年とす尤も再撰するも妨げなし

第十三條　會長副會長及幹事評議員は無給料とし書記は相當の報酬を給す

第十四條　本會の集會は七月八月を除くの外毎月一回として通常第一土曜日午後一時より之を開く

第十五條　毎會學識經驗ある者を聘し講義演說を囑し本會々員の演說と共に之を筆記して本會雜誌に掲載し毎月各一冊つゝ無代價にて之を會員に頒付するものとす

但し演說の間に談話を交ゆる事あるべし

第十六條　會員は家族の婦女子又は知己の婦人を本會々場に誘致して傍聽せしむることを得

第十七條　講義演說の際男子の傍聽を禁ず

但會員に緣故ある男子は此限にあらず

第十八條　本會の所有金は本會の名義を以て三井銀行に預くるものとす

但些少の金額は日々の費用支出の爲め事

明治二十一年二月二十八日內務省許可

務所に引出置を得

第十九條　會計の收支は總て會計課幹事の撿印を要す

第二十條　會員又は會員外より金圓若くは書籍物品等を寄贈あるときは本會より謝狀を送り且寄贈の品目及其人の姓名を本會雜誌に載せ報告するものとす

第廿一條　會費は郵便小爲替にて東京下谷郵便局へ向け振出しある可し
但不得止場合には郵便券を代用するも妨けなし尤も一割增とす

第廿二條　入會員には會員證を附與すべきに付郵便にて申込の者は郵便券二錢を添ふ可し

第廿三條　毎年三月九月の總會に於て會計の收支庶務の概略并に會員の增減等を報告す可し且規則改正の案あれば之を議定するものとす尤も議定は總て多數決とし可否半數なるときは會長之を決す
但至急規則の改正を要する事あるときは豫め會員に報して臨時に之を爲すことを得

第廿四條　毎年三月の總會に於て役員の撰擧をなすものとす

第廿五條　規則の範圍内に於て役員の評議を以て其細則を設くることを得

第廿六條　各地方にて發起者十人以上ある者は支會を設くることを得
但其規則は本會の規則に抵觸せざる様起草し本會役員の認可を經へし

第廿七條　本會の集會場は時々報知する者とす

第廿八條　會費金は受領證を付與すべし尤も小爲替又は郵便券にて納むる者は右受領證遞送費として郵券二錢を添ふべし然らざれば受領證は送付せざるものとす

第廿九條　入會後轉居する者は速に事務所に通知ある可し尤も死去の節は親戚知友等より通知ある可し

第三十條　退會せんとする者は會員證を添へて其旨事務所へ報知あるべし

明治二十五年九月

東京下谷區練塀町四十三番地

私立　大日本婦人衛生會

明治廿七年十月三十日印刷
明治廿七年十一月二日發行

發行所　東京下谷區練塀町四十三番地
大日本私立婦人衛生會

編輯兼發行者　東京牛込區矢來町三番地
田中徳三郎

印刷者　同　神田區小柳町十三番地
小高良造

印刷所　同　神田旅籠町貳丁目拾一番地
廣業館

明治廿六年四月四日遞信省認可　第一金曜日發行

（定價金拾錢）